

平成26年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472000627	事業の開始年月日	平成14年12月1日
		指定年月日	平成14年12月1日
法人名	株式会社 メディカルライフケア		
事業所名	グループホームエレクト		
所在地	(259-1201) 神奈川県平塚市南金目 8 3 3 - 1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員 名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員 名	
		宿泊定員 名	
		定員計 18名	
		ユニット数 2ユニット	
自己評価作成日	平成26年1月7日	評価結果 市町村受理日	平成27年4月10日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本人の意思を尊重したできる限りの支援。(携帯電話を持つての1人散歩など) 門戸開放。自立支援を中心にできることをできる限りやってもらう。ゆったり、のんびりである。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興協会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成27年1月22日	評価機関 評価決定日	平成27年4月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】
この事業所はJR平塚駅と小田急線秦野駅の間にあり、平塚駅からバスで30分程の閑静な住宅地に位置している。平成14年に各種福祉施設を運営する当法人が開設した。住宅地に馴染む木造2階建ての建物である。

【利用者の意思を尊重した支援の実践】

理念「ゆったり、のんびり急がずに、めざせ御入居者様、一人一人が思い出を作れる家」のとおり、利用者の出来ることはやってもらい、職員は見守りを重視している。一日の予定は、午前のラジオ体操・おやつ以外は個別に対応している。利用者の希望により、毎日入浴したり、携帯電話を持って一人で散歩している方もいる。

【地域との連携】

自治会に加入して公民館祭り、福祉レクリエーションに参加し、地域の方や近隣の幼稚園並びに他の介護施設の方との交流を行っている。地域の小学生の合宿行事の際は、浴室を提供する「もらい湯」に協力したり、事業所の花火大会には、地域の子供の参加を得ている。昨年10月の金目川増水による避難勧告が出された時は、自治会の協力を得て対応しており、地域との協力体制が出来ている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム エレクト
ユニット名	1Fふくろう

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケアに関する話を通じて、その都度必要な場において話し合いをし実践につなげている	事業所開設時に定めた理念は事務室に掲示している。半年ごとに職員は、自己評価を行い理念を確認している。利用者のペースに合わせ、出来ることは任せて、職員は見守りを重視している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の一員として活動に参加している。もらい湯、中学生の職場体験、ホーム開催の花火大会、歌のボランティアなどにも参加してもらい交流を図っている。	堀之内自治会に加入し、散歩や買い物時に挨拶を交わしている。毎月行われる公民館のふれあいサロンや社協主催の福祉レクリエーションに参加し交流している。地域の小学校の宿泊行事の際、浴室を提供している。中学生の体験学習に協力している。ボランティアは、合唱団が来訪しており、近隣の方も参加し楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やその他地域の方の来訪時に話す場をつくらせてもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的で開催し、民生委員の方にも参加してもらい徐々にサービス向上へ活かせるような会議にむかっている。	2カ月1回定期的に実施している。メンバーは地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、管理者で、内容は事業所の運営報告、自治会の案内などである。地域包括支援センターから紹介された「ケア会議」に参加している。家族や市担当職員の参加は、得られていない。	定期的には開催されていますが参加メンバーが少ない状況です。家族の参加を得る利用者・家族の要望や意見を聞く場とするとともに、地域へ事業所の情報を伝えていく機会として活用することを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の受け入れなどにより、協力関係を築けるよう取り組んでいる。分からないことは市介護保険課に相談し指導を受けている。	市の介護保険課、地域福祉課と要介護認定更新の手伝いや生活保護費受給の相談などを行っている。市の介護相談員を受け入れている。今後、運営推進会議への参加を働きかける予定である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々取り組んでいる	身体拘束その他の行動制限廃止マニュアルを基に理解を促している。スピーチロックに対しても職員間で注意し合い対応している。玄関、ユニットの出入り口とも施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会などに参加し、その都度確認する機会を作っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて研修会などに参加し勉強する機会を作っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	常に説明は行い、疑問点などはいつでも受けられる体制にしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に申し立て第3者機関の連絡先などの説明をし、ホームでは1年に一度アンケートを実施し運営に活かしている	家族の来訪時やケアプランの説明時に把握している。年1回法人が家族アンケートを実施し、その結果を掲示している。体重コントロールの要望に対して、食事の管理や散歩の増加などにより対応している。玄関に「気づきカード」を置き、来訪者から意見・感想が寄せられている。家族別に「エレクトだより」を送付し状況を知らせている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日々の会話の中のものでも柔軟に対応できる体制にしている	管理者は、通常の業務や朝夕の引き継ぎ時、さらに年2回の職員面談でも意見を聞いている。職員の要望により、シフト、勤務日の変更に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自己評価表を活用し、面談により就業環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な社内研修を実施することにより、統一した教育を進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	いくつかの会議や集まりに参加できるよう勤務体制を整えている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント作成等を通して、話す場を作り信頼関係構築に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント作成等を通して、話す場を作り信頼関係構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その都度必要に応じて話し合いの場を持って対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意・不得意を把握し、マイペースに過ごし参加自由なレクリエーションなどで支えあう関係を築いている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報の共有を図り、一緒に支えていく関係を築けるよう努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	制限せず支援に努めている	家族により、馴染みの美容院や墓参りに一緒に行くこともある。編み物、折り紙など利用者の趣味が継続できるように支援している。年賀状の宛名書きの支援や電話の取次もしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入るなどして関わりが持てるよ支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	制限なく支援に努めている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	傾聴や言葉以外での意思表示等からも思いを把握するよう努めている	入居時の「そのままシート」や「からだの情報シート」から状況を把握している。日常のケアの中で職員は意向の把握に努めている。意思の疎通が困難な方は、態度や表情から読み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報シートを活用し、家族本人から聞き取り、暮らしの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中から情報収集し、現状把握に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望を反映させた介護計画を作成している	入居時のアセスメントにより初回ケアプランを作成し、職員間で共有し、個別ケアを実施している。モニタリングやカンファレンスを行い、6カ月毎に見直している。利用者・家族や医師、看護師の意見もその都度把握して、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日帳票へ記入し、情報の共有を図り日々のケアや計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族要望書を利用し、出来る限りの要望に柔軟な支援をしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護相談員の受け入れなどにより、幅広い人との繋がりを持てるように支援している。地域のリクリエーション等にも参加している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	いままでのかかりつけ医の継続もホーム提携医への変更も希望により応じており、毎月2回の往診により支援している	利用者1名以外は、提携の協力医を月に2回受診している。家族対応でかかりつけ医を受診している方からは受診結果の報告を受けて共有している。週1回、看護師の訪問がある。訪問歯科や皮膚科の往診もある。24時間医師や看護師と連絡が取れる体制がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を通して、訪問看護と契約支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	その都度、ご家族・関係機関ともに調整している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その都度、話し合いの場を持ち方針を共有できるよう努めている	契約時に、重度化及び看取りに関する指針を説明し、医療連携体制同意書・終末期及び急変時の延命医療に関する同意書を作成している。これまで、看取りの経験はないが、家族の要望には、応えていく意向である。法人の研修時に、他施設の看取り事例を学んだ。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの設置とともに必要に応じて研修やOJT教育にて対応している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議にて地域の方と災害対策の話をしたり、自治会の防災訓練に参加するなど定期的な避難訓練を実施し体制を整えている	避難訓練は年2回を計画していたが、実施は12月の1回のみであった。消防署の立会はなく自主訓練であった。地域の方の参加がなく、地域の防災訓練にも参加していない。備蓄は、法人が一括購入し管理している。	避難訓練は夜間想定を含め年2回実施し、出来れば消防署の立会による訓練の実施を期待します。運営推進会議や自治会を通じて、地域の方に参加を依頼し、協力が得られるように引き続き努力を期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護法に遵守し、取扱いに気を付けている	社内の接遇研修に参加している。トイレ誘導での言葉かけや、トイレや入浴時に肌を見せないように注意している。各居室ドアのガラス部分には、職員が装飾し中が見えないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ユニット全体でコミュニケーションを図り、傾聴することを心かけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間は決まっているがその他に関して本人のペースを尊重し支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望により訪問利用を活用したり、本人の希望により対応できるよう努めている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることを出来る限り職員と一緒に取り組めるよう支援している	食事はユニット毎に作り、献立は、職員が利用者の意見を聞いて作成している。職員と利用者がほぼ毎日買い物に行っている。利用者は、配膳や後片づけをしている。2～3カ月に1度、回転寿司などへ外食に行き、出前や行事食も楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に食事量を決めるなど、医療的な助言をもらいながら一人一人状態に合わせて支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ここに合わせた声掛けなどで清潔保持を支援している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自然な排泄を基本としケアプランを検討し支援している	自立の方は6名で、ポータブルトイレを使用している方はいない。夜間、1名の方だけオムツを定時に交換している。自然な排泄を基本として、必要な方のみトイレ誘導をしている。排泄チェック表・水分チェック表にて排泄支援と体調管理をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療面からの助言や食事、運動など自然な排便を基本とし個々に合わせて取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々に合わせた出来る限りりの自立支援のもと、入浴支援をしている	原則は週2日の予定であるが、希望に応じて2名の方には、毎日対応している。入浴したくない人には、時間をずらしたりして、週1回は入浴してもらえるように支援している。季節の菖蒲湯やゆず湯なども楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の状況により、声掛けで促したりケアプランののせて支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員のダブルチェックのもとマニュアル通り支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントや日々の会話などから柔軟な対応で支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームで企画し、出かけたり、その際ご家族に声をかけ協力して支援している	天気の良い日には、近所を散歩したり、ベンチで日光浴をしたり、お茶を飲んだりして楽しんでいる。ユニット毎に計画し、初詣や梅見、花見、水族館見学などに行き楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の状態に合わせて支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	制限なく支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季に合わせて装飾を変えるなど利用者とともに空間を作っている	食堂兼リビングは明るく、テーブルとソファが置かれ、ゆったりと過ごすことが出来る。テーブルにはいつでも飲めるように麦茶が置かれている。廊下は広く、壁には、行事の写真や貼り絵が飾られている。清掃は、職員と利用者が毎日行い、清潔を心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の時以外は特定の席を設けず自由に居場所を決めてもらっている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入起居時より今までの生活してものを持ち込んで頂き、制限なく居室を使って頂いている	居室は明るく、2タイプあり、エアコン、カーテン、照明器具、クローゼットが備えられている。利用者は、ベッド、タンス、テレビ、ぬいぐるみ、家族の写真など馴染みの物を持ち込んで、居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせた暮らしの支援によって工夫している		

目 標 達 成 計 画

事業所名 716-7ホ-ムエレクト

作成日 H27. 4. 10

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	避難訓練の実施 数と内容 (夜間想定や、消防署 立会がなされているのか)	地域・消防署の 立会による 防災訓練の実施 夜間想定訓練実施	地域の防災訓練 への参加。 昨年出来なかった 消火器訓練実施 (消防署立会)	1年
2	4	運営推進会議 への家族参加 (市役所職員) 参加メンバーの不足	地域・家族の 情報交換、交流の 場として更に役立て 行く。	地域・家族へ周知 徹底 地域行事への参加協 力で連携を図る。	1年
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。